

谷村秋村 はらむね 隨筆家。明治四年四月十七日越中國生れ、昭和十一年二月十二日歿（八七一・九三）。本名一太郎。別號、二上太郎、東嶽隱士、石山、醫王山人。東京專門學校卒。藤本ビル・ブローカー銀行に入り、累進して大正十四年取締役會長。他に數社の重役を兼任し、昭和七年實業界引退。傍ら文筆を能くし、金澤の『北國新聞』に於ける「財界漫言」は執筆十數年に及んだ。一方書籍蒐集家としても知られ、就中マルサスの『人口論』の如きは各種版本を揃へたといふ。長男順藏の妻ゆき子は國語學者新村出の長女。

著書『谷村秋村遺稿』（昭和十二年五月十日京都・谷村順藏印刷）等。

